

みぞくちミニ新聞

発行元
みぞくち

購読無料
毎月発行

みぞくちプチ秋祭り

コロナ禍でも楽しむ

10月15日、恒例みぞくちプチ秋祭り開催。今年度はコロナ禍の為、多くの行事を中止とした中、利用者の皆さんも職員も待ちに待った催しとなった。

事業所の敷地内には、おでん・焼き鳥・うどん・はしまき・フランクフルトといった屋台が連なり、利用者の方々が釘付けにしていた。さらに、景品抽選会、ビンゴ大会と場を盛り上げた。

ビンゴ大会は屋外下駄箱前の屋根のあるスペースに皆集まり、パソコンがはじき出す数字を聞き逃さないよう、皆耳を澄ませた。

森田サビ管と所長は、一年を通してこの光景はなかなか見られないと感心していた。というのも、一つ

の事を目的として、生活・就労のほとんどの利用者の皆さんが集まって、気持ち一つにしていること。まあ普段ではありえない出来事だ。当然その中には職員も混じって、この数字あの数字があった・なかったとワイワイ。

所長は感じた。日々の変わらぬ生活も大切。でも時々々はこういった催し事も必要。ウイズコロナの生活の中、改めて実感できた。利用者の皆さんも職員もきっと同様に実感しただろう。楽しい一日だった。

予防接種も

同時実施

実はこの日、インフルエンザ予防接種も行った。ド

クターの都合上、この日から11月末にしか実施日が設けられず、止む無く同時進行とした。

今年の冬は新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行の恐れ大として、国からも高齢者には10月末頃までを優先的に予防接種。その後多くの国民も予防接種を受けるよう広報されている。インフルエンザワクチンが必要な人にいきわたるかどうか懸念もある中、早期に予防接種できたことはラッキーだ。

ところで、祭りと予防接種の同時進行には、一抹の不安はあった。楽しく祭りが出来るか？気持ちを切り替えて予防接種を受けられるか？どういう段取りが良いか？接種を受ける順番は？事前に念入りに検討。おかげさまで、どちらもきちんと行える事が出来た。利用者の皆さん・職員の皆さんありがとう。

木の芽時

柔らかな新芽が一斉に芽吹き出す3月から4月にかけては、「木の芽時」と呼ばれる。実はこの「木の芽時」は、昔から精神科医の間では、メンタル状態が悪化する人が増える要注意時期として有名だそう。

私たちも季節の変わり目、特に気温の寒暖差が激しくなる時期には体調を崩しやすかったり情緒が少々不安定になりがち。特に春先と秋口はその傾向が強いように感じる。利用者の皆さんの中にも、そうではないかと思われる方が増える時期。お互いに寛容な気持ちが必要。所長も家庭では奥さんを困らせないように、穏やかに過ごすよう努めています。

ちよつと一息

所長は毎朝朝礼前に、メールやその日の予定、新型コロナウイルス感染者数の動向、お天気等々を確認する。

最近気が重いのは、10月末から11月頭にかけて、岡山県下の新型コロナウイルスウイルス感染者数が急増していること。このミニ新聞を執筆している11月5日も感染者数131人で、中国5県・四国4県の中では群を抜いて多い状況だ。これまで以上に身近に迫ってきた感がある。出来る限りの感染防

止対策は実施している。しかし、感染は目に見えないもの。確かに恐怖はある。今一番怖さを感じていることは、感染が人体に及ぼす影響もさることながら、感染したことへの誹謗中傷やコロナ差別だ。こういうことを起こす人にとっても寂しい思いがする。コロナは誰でも感染するが、いつかは終息する。感染した人たちに私たちが出来る事は、完治を祈り、退院後にはよかったねと声を掛けてあげる事だけで十分ではないだろうか！